

# アトサヌプリ (硫黄山)



阿寒摩周国立公園

川湯エコミュージアムセンター



開館時間  
4月～10月 8:00～17:00  
11月～3月 9:00～16:00

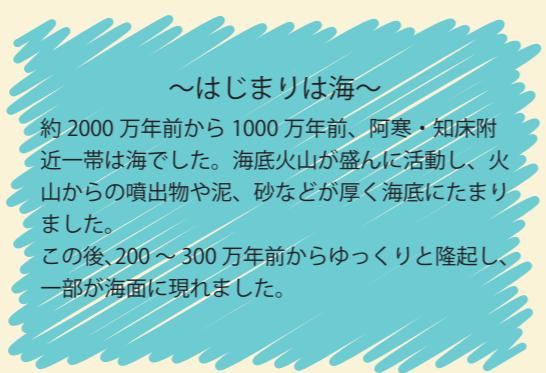
## 休館日

毎週水曜日(7月第3週～8月31日は無休、  
水曜祝日の際は翌日)  
年末年始(12月29日～1月3日)  
入館料 無料

088-3465  
北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-6  
TEL 015-483-4100  
FAX 015-483-4111

URL <http://www.kawayu-eco-museum.com/>

## 摩周・屈斜路・アトサヌプリカルデラの成り立ち



### ～はじまりは海～

約2000万年前から1000万年前、阿寒・知床附近一帯は海でした。海底火山が盛んに活動し、火山からの噴出物や泥、砂などが厚く海底にたまりました。この後、200～300万年前からゆっくりと隆起し、一部が海面に現れました。



およそ7千年前には屈斜路カルデラの東側で摩周火山が噴火し、新たに摩周カルデラを形成。長い年月を経て水がたまり、摩周湖となりました。



今からおよそ40万年前、この地域にはいくつかの火山が連なっていたと考えられています。そして約3万年前にかけて、この地域で大噴火が繰り返されました。その噴火に伴う火碎流は、道東全域を埋め尽くすほどの巨大なものでした。



古アトサヌプリの周囲にサンチサップ(現在のかぶと山)と新期アトサヌプリ(現在の硫黄山)を形成し、今の姿がほぼ完成しました。



マグマを噴出した場所の地下に空洞ができたため、地面が落ち込み、巨大な屈斜路カルデラが誕生しました。このくぼ地に水が溜まり、屈斜路湖の原型ができました。



この地域の最後の大きな噴火は約1千年前の摩周岳の噴火でした。今でも爆裂火口が残っています。



屈斜路カルデラ形成後も活発な火山活動が続き、摩周火山や古アトサヌプリ火山など、新たな火山がいくつも生まれました。



数百年前にはアトサヌプリ(硫黄山)の山頂付近で水蒸気爆発が起き、「熊落とし」と呼ばれる火口跡が残っています。



### ⑤オプタテシケ

標高 504.1m II期 二重構造  
地名:オブ(槍)タ(そこで)テシケ(それ)〈コタンの裏山で、昔藻琴山と槍投げをして争ったとき槍がそれをという伝説あり〉

### ⑥リシリ

標高 397m II期 単一構造  
扁平な円頂丘で、溶岩は北方で湯沼をせき止め、南方へ2.5kmも流れ、美留和原野に達する。

### ⑦サンチサップ

標高 520m II期 二重構造  
地名:サ(前方)ワ(に)アン(ある)チサップ(?)  
別名:帽子山 山の中腹にスキー場の跡あり。

### ⑧マクワンチサップ

標高 574.3m II期 二重構造  
地名:マク(後方)ワ(ある)チサップ(?)  
別名:かぶと山

### ⑨アトサヌプリ

標高 512m II期 二重構造  
地名:アトサ(裸)ヌブリ(山)〈硫黄山〉  
円頂丘群の中で一番新しく、噴気孔は1500以上あり、現在も絶えず活動をしている。

### ⑩274m山